

★★★ 日本プロテオーム学会 学会通信第 309 号 ★★★

2018.11.21

【日本プロテオーム学会通信】は、日本プロテオーム学会会員の皆様に配信しています。【アドレス変更/配信中止】【ご質問・お問合せ】【掲載希望】は、日本プロテオーム学会事務局(info@jhupo.org)にお願いいたします。

■■■ プロテオミクス研究から製造販売承認までいった成功例 ■■■

日本プロテオーム学会員の皆様

東京大学の小田吉哉先生から「プロテオミクス研究から製造販売承認までいった成功例」に関する情報が届きましたので、以下にお知らせ申し上げます。

日本プロテオーム学会事務局

記

血清プロテオミクスから体外診断薬として製造販売承認（現在は保険収載待ち）まで到達した成功例について、以下の情報をお知らせいたします。

【IBD（炎症性腸疾患）を迅速に評価する新たな診断薬 LRG が承認！「CRP を超える炎症マーカーで変わる腸疾患診療」】

詳細は日経メディカル（<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/report/201811/558678.html>）をご覧ください。

・本診断薬は、医薬基盤研の仲哲治先生（現高知大）らのグループが iTRAQ による血清プロテオミクスを用いて行ったバイオマーカー探索研究にもとづくものです。

（<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/?term=19854709>）

・なおこの体外診断薬（ラテックス免疫比濁法による血清中ロイシンリッチ α 2 グリコプロテイン（LRG）の測定）は積水メディカルで製造販売が行われ、さらに慢性関節リウマチへの適用拡大も目指しています。

他にも、プロテオミクス研究から製造販売承認までいったような成功例をご存じの方がおられましたら、JPrOS 事務局（info@jhupo.org）までぜひご一報ください。

以上